

場所・面積

千葉県君津市、40.18 ha

管理目的

樹木生産の圃場としての管理及び自然観察のため開放した散策路としての整備が行われています。

サイト概要

千葉県君津市に位置する樹林に囲まれた造園樹木生産のための圃場、及び自然散策路です。グリーンセンターそれ自体が里山林の性格を持ち、コナラ・クヌギ等カブトムシ・クワガタムシ等の昆虫の集まる木、千葉県RL要保護生物(C)のモリアオガエル等の棲息している池等、二次的自然環境を維持している豊かな生態系の山林です。又、東京湾、富士山を眺望する展望台、養蜂のためのスペースと共に、開園日には君津市内の小学校、幼稚園を始め、行政、NPO・各種団体等の自然散策コース、生態系を学ぶ場として利用されています。

土地利用の変遷

昭和30年代までは地域の薪炭林として利用されてきた場所でした。昭和41年より樹木生産拠点としての圃場、造園技術者の育成場として開設されました。平成11年より圃場の一部を一般のための自然観察散策路として開放現在に至ります。

サイト周辺の環境

サイトは南房総国定公園第三種特別地域かつ水源涵養保安林に接続し、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場です。また、当サイト自体は高宕山県立自然公園内にあります。

アピールポイント

・ “大手町の森” 都心に「自然の森」を作る実証実験の場（プレフォレスト）

都心に“自然の森”を作る初めての試み、そのために施工の三年前から実際の森の設計図通りに君津グリーンセンターで植栽を行い（プレフォレスト）、森としての生育を検証し、改良を重ね、その検証・改良を元に実際の施工時にはこの君津グリーンセンターより多くの樹木、地被類等が搬出され造園工事が行われました。

・ 鎮守の森プロジェクト・植樹祭への苗木供給基地：

東日本大震災で被害を受けた福島県南相馬市、岩手県山田町、宮城県岩沼市、同女川市等多くの場所で行われている鎮守の森プロジェクト・植樹祭への樹木供給をしています。供給樹木は、上記の地域樹木の種子を採取し、君津グリーンセンターで種付けし、生産したものです。

・ 豊かな自然観察の場：

君津グリーンセンターの一部をきみつのさんぽ道として開設して以来、行政、公共団体、学校、各ボランティア団体が自然観察の場、散策の場として利用しています。

・ 絶滅危惧種の住処の場

千葉県RL要保護生物(C)モリアオガエル等が生息しています。

・ 環境緑化技術研修所：

昭和52年から8年間環境緑化技術研修所が設置され造園技術者の育成が行われ、植物生態学・造園学、土壌学、気象学他の権威ある講師陣が教鞭を執りました。

・ 共同研究・技術講習の場：

様々な大学・官公庁・団体による共同研究の場として使われています。又、業界団体の技術研修・講習の場として広く開放しています。

・ 東京大学千葉演習林と房総産樹種の増殖共同試験：

1894年創設東京大学千葉演習林(2225ha,植物種950種)の郷土種の共同試験を平成20年11月より行われ、25種の増殖試験が行われました。



生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】 単一種の樹木だけの森ではなく、多種多様な樹木、地被類による生態系にとって重要な場です。右下写真の様に所々にバイオネストを設け、生態系多様性に寄与させています。

【主な植生】 主にコナラ群落、一部スギ・ヒノキ・サワラ植林となっています。

【確認された主な動植物】

- 鳥類 : キジ、ヤマガラ、シジュウカラ、ホオジロ等
- 昆虫類 : アオスジアゲハ、クロアゲハ、アカボシゴマダラ、オニヤンマ、ショウリョウバッタ、カブトムシ、ノコギリクワガタ、オオスズメバチ等
- 爬虫類 : ヤマカガシ
- 両生類 : モリアオガエル、アズマヒキガエル又はニホンヒキガエル、ヤマアカガエル等
- 哺乳類 : イノシシ、タヌキ、ニホンノウサギ、ハクビシン等
- 植物類 : ニリンソウ、マテバシイ、アラカシ、クヌギ、コナラ、ムクノキ、イヌビワ、コブシ、クスノキ、ヤマコウバシ、クロモジ、タブノキ、ウワミズザクラ、マメザクラ、ヤマザクラ、コゴメウツギ、アカメガシワ、カラスザンショウ、サンショウ、センダン、ヌルデ、アオキ、ミズキ、エゴノキ等



撮影日：平成26年5月撮影
写真の説明：ヤマガラ



撮影日：平成27年4月撮影
写真の説明：キジ



撮影日：令和2年4月撮影
写真の説明：クロアゲハ



撮影日又は撮影年月：2017年7月

写真の説明：区域は、コナラ群落であり、クワガタを始めとした昆虫の生態系サービス提供の場です。多様な動植物からなる健全な生態系が存する場としての価値があります。



撮影日：令和5年1月23日撮影

写真の説明：バイオネスト：散策路の管理やその他に排出された樹木の小枝を廃棄する事なく、バイオネストとして数カ所に設置させ、昆虫類等の棲息を促し、結果的に生態系の多様性に寄与するものと考えています。

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

サイト東部の淡路花博記念庭園は“ジャパンフローラ2000”で室内展示していたRHSJモデルガーデンを2001年に復元した庭園です。池周辺にはオオトクサ、ハンゲショウ、オウゴンセキショウ、アスチルベ、ユキノシタ、タンチョウソウ、クラマゴケ等湿地性の植生が広がっています。

【確認された希少種】

- 2014年5月21日に実施した調査において、下記モリアオガエルの卵塊、2017年6月9日には成体を確認。
- ・モリアオガエル（学名：Rhacophorus arboreus,卵塊、成体、千葉県RL 要保護生物(C))
- 2014年7月11日に実施した調査において、下記を確認。
- ・ホオジロ（学名：Emberiza cioides, 成体、千葉県RL 要保護生物(C))
- 2015年に実施した調査において、下記を確認。
- ・ヤマアカガエル（学名：Rana ornativentris, 成体、千葉県RL 要保護生物(C))



写真の撮影年月：2017年6月9日撮影
写真の説明：モリアオガエル成体 千葉県RL 要保護生物(C)



写真の撮影年月：2014年5月21日
写真の説明：モリアオガエル成体 千葉県RL 要保護生物(C)

生物多様性の価値

価値（9）既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場

【場の概況】

サイトは南房総国立公園と接続し、且つ高宕山県立自然公園内にあることから、双方公園等と一体の生物多様性の場となっています。

【主な植生】

主にコナラ群落、一部スギ・ヒノキ・サワラ植林となっています。

【隣接・接続する保護地域等】

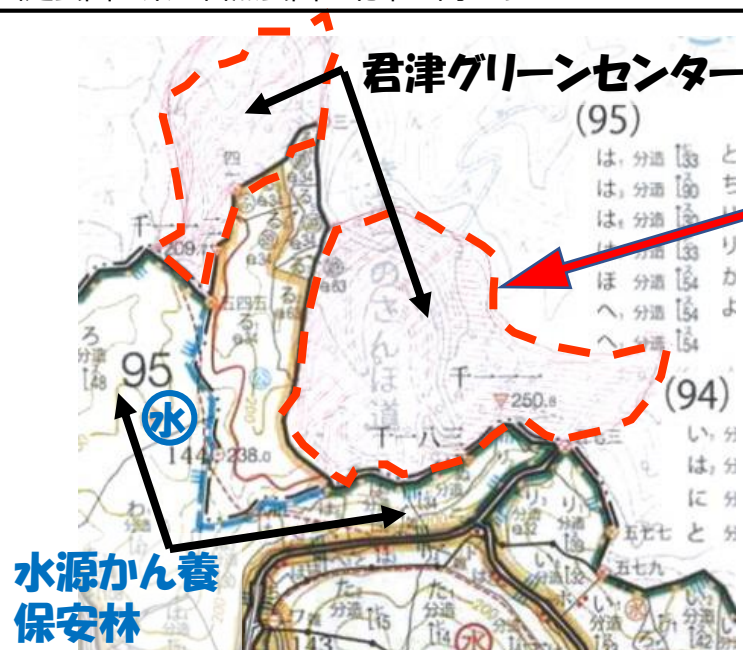
南房総国立公園に隣接・接続しています。サイト自体は高宕山県立自然公園内にあります。

【緩衝機能や連続性・連結性の機能】

航空写真、植生図、右図から国立公園の水源涵養保安林に接し、緩衝機能や連続性・連結性の機能を有しています。



写真の説明：Google Earthにより
国立公園と県立自然公園を北東方向より



上図は関東森林管理局、【千葉森林管理事務所】千葉南部の森林計画図（千葉南部2-2）を利用し、君津グリーンセンターの位置必要箇所の情報を補足した図です。



上図はEADASを利用し、君津グリーンセンターの位置と南房総国立公園、高宕山県立自然公園との位置関係を現しました

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容

君津グリーンセンターでは、区域を利用目的別に下記3つの地区にゾーニングし、以下の通り管理を行っています。

【保全地区】 この地区は潜在自然植生に従った常緑・落葉広葉樹が主体となり、里山樹林を構成しています。又、ツバキの道、マグノリアの小径、ヤマザクラの尾根道があり、一般訪問客に開放された自然散策路が含まれます。この為、散歩道としての管理、整備が行われ、草刈り、枝落とし、間伐は必要に応じ行っております。又、この地区では殺虫剤、除草剤は使用せず、枝落としで発生した枝を使ったバイオネストを所々に設置し、昆虫を始め生態系に配慮をした管理にしています。

【生産地区】 この地区ではスダジイ、マテバシイ、タブノキ等の常緑広葉樹、林床を利用したアオキ、ヤツデ、ヤブラン等の地被植物の生産をしています。苗床、ポット苗、コンテナ栽培エリア、温室や苗床作業場、林床が含まれます。この地区は、日照、温湿度、栄養等の管理により丈夫な苗木を生産しています。

【整備地区】 この地区は管理事務所、研修所、東京湾展望広場（芝生広場）、神社、RHSJ記念庭園、養蜂箱置場が含まれる地区です。管理スタッフの他、多くの一般訪問客を受け入れる場所です。ケヤキ、スダジイ、クスノキなどの広葉樹林に囲まれ、東京湾展望広場からは富津岬、東京湾、そして富士山に見える緑豊かな地区です。この地区の管理として、殺虫剤、除草剤は使用せず、樹木の枝落とし、草刈り、道路の整備、山の神の神社の整備、祭礼(1月)等を行っています。

【三地区共通】 樹木の成長を妨げない日照管理、台風時の倒木の整理や間伐、枝落とし草刈り等、生態系に影響を与えない程度の舗道の整備を行っています。



モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】

主に、野鳥、昆虫、哺乳類、両生類等

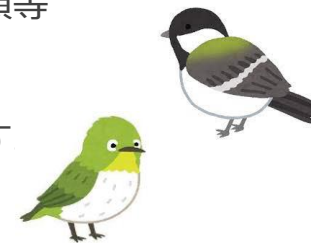
【モニタリング場所】

君津グリーンセンター内で行います

【モニタリング手法】

現地にて観測します。

※鳥類は鳴声、両生類は卵塊の確認を含む。



【実施時期及び頻度】

鳥類：繁殖期(5-6月頃)、越冬期(12~1月頃)

両生類：産卵時期に常駐職員による卵塊の確認。

ヤマアカガエル(1~4月頃)、

モリアオガエル(5~6月頃)、等

その他の昆虫類、哺乳類等：時期は未定。

※上記分類群を対象に5年間で少なくとも1回、出来れば2回行う予定です。（日程は後日調整）

【実施体制】

NPO法人千葉県森林インストラクター協会(一社全国森林レクリエーション協会認定する森林インストラクターの資格有り)の協力を仰ぎモニタリングを行う予定です。

サイトの管理計画・モニタリング計画

君津グリーンセンター土地利用計画図

